



隅田 直樹氏

概要

◆氏名・所在地

隅田 直樹 福岡県北九州市

◆就農年

令和5年12月

◆事業内容

雇用就農先で 水稻、ブロッコリー、ミニトマト、玉ねぎの栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

母から家庭菜園をするから一緒にやってくれないかと言われた際に、ちょうど建設業を辞めて時間があつたため、一緒に始めたところ、農業の魅力に気づいた。

将来的に職業として **農業をするためにどうしたらいいのか、どこに相談すればいいのか**を探していたところ、ホームページをみて、「**福岡県農業経営・就農支援センター（福岡県就農支援センター。以下「支援センター」という。）**」を知った。

2

相談内容

家庭菜園の経験はあるものの、職業としての農業経営や栽培技術に関する知識がなかったため、農業で生計を立てられるのかを含めて教えてほしい。また、就農についての具体的なアドバイスがほしい。

3

支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

すぐに農業経営を開始することは、栽培技術と資金が不足していることから難しいことを理解してもらい、**雇用就農しながら、農業経営や栽培技術を学ぶことが現実的である**など、就農専属スタッフの経験に基づいた適切な情報提供・提案を行った。

●雇用就農先の紹介

支援センターと北九州普及指導センターとが連携して、相談者に適した雇用先を選定し、就職予定の農業法人と複数回面談した上で、雇用就農を決定した。



作業中に社長とコミュニケーションをとる様子

●関係機関との連携による取組

相談者が希望する作物を栽培しており、自宅からも比較的近かった北九州市の先進農業法人に就職して、栽培技術取得等を行っているが、更に農業経営者としての自立に向けて、北九州普及指導センターが開催する講習へ参加し、祖父母が所有する農地がある行橋市での自営就農に向けた準備を進めることとしている。



農作業の様子

今後の意気込み

紹介いただいた農業法人では、**雇用型農業経営を確立した元従業員があり、身近に好事例**があります。社長から農業経営の考え方や時間管理の重要性について説明を受けたり、機械作業ができるように免許取得を勧めていただいたりしてます。また、日頃から社長のご家族や先輩従業員の方から、栽培管理などの作業方法について丁寧な指導もあり、農業経営に対するイメージが明確になりつつあります。

紹介いただいた支援センターの就農専属スタッフの方とのご縁だと感謝しております。

専属スタッフ所感

相談時から、本人の精神面と体力面とも充実した有望な人材であり、期待ができると感じました。今回、相談者の希望である経営内容や勤務場所等と農業法人の希望が上手く合致しました。**就農へ導くためには、マッチングが非常に重要である**と考えております。

期待通り勤務態度も非常に良く、農業法人からの評価が高いです。今後、福岡県の若手担い手として、**普及指導センターと連携しながら、引き続きフォロー**していきます。

いちごトレーニングファームから就農を目指す

その他（研修）

自営就農



佐賀県一のいちご単収を目指す川西宏貴氏

概要

◆氏名・所在地

川西 宏貴 佐賀県白石町

◆研修開始年

令和5年5月

◆事業内容

トレーニングファームにて、いちご経営の研修に取り組む。

1

就農相談までの背景

前職では飲食業界で勤務していたが、コロナ禍で飲食業界に大きな影響を受けたこともあり、前々から関心を持っていた農業に転職したいと考えるようになった。

退職後、兄の住む福岡県で露地野菜の研修を受けながら、全国就農促進イベントに参加するなど、情報収集を行った。

そのような中、トレーニングファームが佐賀県にあることを知り、他にも同様の施設等がないか情報を得るため「さが農業経営・就農支援センター」の就農相談窓口である佐賀県農業公社のホームページからWebによる就農相談の申し込みを行った。

2

相談内容

福岡県でたまねぎなどの研修中だが、間もなく研修期間が終了するので、次の研修先として佐賀県内の露地野菜か施設野菜の研修を受けたい。

香川県出身だが、家を継ぐ必要はなく、どこで就農してもよく、いったん農業法人に就職し、就農の準備をしてもよいと考えているので、求人をしている県内の農業法人や農業研修先について教えてほしい。

3

支援内容

●トレーニングファームの紹介

相談内容から複数の研修施設を紹介、その内の中から、「白石地区いちごトレーニングファーム（以下「トレーニングファーム」という。）」で計3回に及ぶ見学を通して、先輩、後輩を問わず、研修生が生き生きといちご栽培に向き合う姿に魅せられ、トレーニングファームのある白石町でのいちご栽培による就農を志すこととなった。

●農地利用や生活面の対応

就農準備に向けて、紹介した白石町は家賃やレンタカー、燃料費などの支援だけでなく、町広報誌を通して就農時の農地探しも支援している。

●関係機関との連携による取組

いちごトレーニングファームを運営するJ Aさがでは、白石町と連携し、農地の斡旋やリース事業活用によるハウス建設計画などの就農に向けた調整を行っている。

また、普及指導センターでは、J Aさがやトレーニングファームなどを交えた定例会や現地圃場研修を行うとともに、就農後のフォローアップとして、重点的な技術・経営面の助言と指導を行うこととしている。



トレーニングファームのトレーナーを囲む3人の同期研修生



いちごトレーニングファームで研修中の川西氏

今後の意気込み

トレーニングファームに入る決め手は、親身になって指導していただくことになるトレーナーはもとより、研修生達が切磋琢磨しながらいちご栽培を学ぶことです。

研修終了後も、同期研修生3人の互いの絆を大事にしながら、同じ園芸団地に就農し、よきライバルとしていちごの単収佐賀県一を目指します。

専属スタッフ所感

相談者は就農に向け、トレーニングファームで熱心に栽培技術や知識の習得に向けて日々励んでおられます。

今後、就農後の経営安定に至るまで、ご本人の努力はもとより、就農する町やJ A、農業振興センターなどの支援が不可欠です。

仲間との絆を大事にしながら、支えてくれる周囲の皆さんへの感謝を忘れず、いちご農家を選択してほんとに良かった、と思えるような農業経営を実現してほしいと期待します。



佐藤裕介氏

概要

- ◆氏名・所在地
佐藤 裕介 長崎県諫早市
- ◆就農年
令和4年6月
- ◆経営規模
いちご 0.23ha
- ◆従業員数
家族労働 3名
- ◆事業内容
いちご高設栽培に取り組む。

1 就農相談までの背景

大学卒業後、営業職として民間企業に勤めていたが、農業に関心があり、農業でみんなが笑顔になることを目指し、地域で栽培されているいちご栽培に取り組むことを決意した。

何から始めれば良いか分からなかったが、長崎県におけるいちごに関する支援策や研修制度をネットで調べたところ、「長崎県農業経営・就農支援センター（旧長崎県青年農業者等育成センター）（以下「支援センター」という。）」を知り、相談した。

2 相談内容

「長崎県でいちご栽培を始めたい」と大まかな構想はあったが、農業経験がなかったため、いちご栽培を始めるにあたって、どのようなことが必要になるのか等について、ネットを活用して情報収集を行った。

しかし、農業の知識がほとんどなかったため、技術習得の方法や支援制度に関する専門的な観点からの助言等を受ける必要性を感じ、こうしたことのほか、より具体的な営農までの計画について相談したい。

3 支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

いちごを栽培するということだけは決めていたが、農業未経験ということで農地取得や施設（ハウス）整備のことなど、農業を始める上で必要な情報を提供するなどの相談対応を就農専属スタッフが行った。

●研修機関等の紹介

相談者と協議を行い、農業の基礎技術及びいちご栽培を行う上で必要な実践技術習得ができる長崎県技術習得支援研修を受講することを決定した。

2か月間の基礎研修の後、諫早市内のいちご先進農家で10か月間研修を受け、栽培技術を習得した。



研修を受ける様子

●関係機関との連携による取組

支援センターのサテライト窓口である普及指導センターや支援センターと連携している「Aながさき県央及び諫早市と共に、研修中から農地確保や施設（ハウス）整備等の協議を行い、円滑な就農につなげることができた。

●就農市町村の決定

地元である諫早市において、45aの農地を借り受け、国の補助事業を活用してハウス23aを整備した。ハウスには、高設ベンチおよび環境制御機器を導入し、いちご栽培を開始した。



長崎県技術習得支援研修修了式の様子

今後の意気込み

目標単収6.6t/10aの達成に向けて、環境制御技術を活用し、更なる栽培技術の向上を目指します。

また、最も労力を要するパック詰めの作業者を育成した後に、規模拡大を行いたいと考えています。

将来的には、いちごの加工品にも取り組みたいと思っています。

専属スタッフ所感

就農相談に来る多くの方が「農業未経験」または「体験程度」です。就農までの準備を丁寧に行うことでその先の経営発展にもつながります。

相談者は就農地や栽培品目が決定しており、こちらからの支援に対しても意欲的に取り組まれていました。

地域の担い手となっていただけるように、今後も経営相談を通じて引き続きフォローしていきます。



富森識弘氏

概要

◆氏名・所在地

富森 識弘 熊本県水俣市

◆就農年

令和4年7月

◆経営規模

不知火類 1.21ha

◆従業員数

なし

◆事業内容

加温・無加温及び露地不知火の栽培に取り組む。

1

就農相談までの背景

大学卒業後は、石油会社に就職し、海外勤務も経験したが、転勤に伴う子どもたちの転校も多かったことから、子どもたちに「故郷を持たせたい」との思いがあり、生まれ育った熊本県内での本格的な就農を考えるようになった。

当初、観光農園やコーヒー栽培、地域おこし協力隊、法人就職等の可能性を探ったが、決め手となるものが見つからず、熊本県の就農相談窓口である「熊本県農業経営・就農支援センター（旧熊本県新規就農支援センター）（以下「支援センター」という。）」に相談した。

2

相談内容

就農のために、自分なりに情報収集していたが、観光農園等のいずれの方法も家族を養って行くための、農業所得を確保することが容易ではないと感じていた。特に、きちんと収量が確保できる規模の農地を自力で探すことができなかった。年齢も当時41歳ということで失敗はできないという焦りもあり、自分の状況と希望にあった、就農地と栽培品目を紹介してほしいとの思いから相談に踏み切った。

3

支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

当初、相談者の希望する農業形態が明確でなかったため、相談者の家族構成や年齢、必要な農業所得について就農専属スタッフが十分に聞き取り、相談者の希望を踏まえた実現可能な農業形態にブラッシュアップした。

●研修機関等の紹介

相談者に適したJ Aや市町村ごとの研修先及び移住情報を提供し、適性を探るため、実際に短期研修や受入研修機関との面談を実施した。

最終的に、J Aあしきたでの長期研修に参加することに決定したため、相談者の同意の下、就農専属スタッフからJ Aあしきたへ情報を提供した。



短期研修で新規就農者から説明をうけている様子

●関係機関との連携による取組

支援センターと連携しているJ Aあしきたにおいて、実践的な農業技術にかかる基礎知識、農業経営者としての自立に向けたカリキュラムや研修を行った。

●「リリーフ園制度」による就農・継承先の決定

J Aあしきたには、高齢などを理由に離農する農家の果樹や設備、園地の継承をサポートする「リリーフ園制度」があるため、研修を受けた相談者は、その制度を活用して前園主から整備された状態で園地を引き継ぐことができ、就農1年目から収穫を行うことができた。



全国から農作業体験を受け入れ

今後の意気込み

就農にあたり、支援センターを始め、多くの関係者の方からの支援を受けてきました。まずは何よりも生産技術と農業所得の向上に努め、家族をしっかりと養える生産者を目指します。あわせて、前園主から引き継がせていただいた果樹園を次世代に繋いでいくためにも、生産・規模拡大・販売方法、人の雇用の観点から新しいことにも積極的に取り組んでいきます。

専属スタッフ所感

新規で就農するとなると、かなり時間がかかります。相談者には、研修受講も就農園地にもタイミング良く支援できました。これは、度重ねての相談会やバスツアー等のイベントへの積極的な参加、そして明確な就農目的が目標達成の要因であると考えます。

地域の関係機関一体となって相談者の目標達成を今後も温かく見届けていってほしいです。



農業体験研修に取り組む東氏

概要

◆氏名・所在地

東 隆行・千尋 大分県豊後大野市

◆研修開始年

令和6年1月

◆研修内容

農業経営の座学と模擬営農等、ピーマンでの就農に向けて2年間の長期研修に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

前職は他県で食品会社の加工部門の現場主任として勤務していたが、転勤や職場環境等から自身の出身地である大分への帰郷を考えるようになった。そのような時、豊後大野市の就農学校であるインキュベーションファームのホームページを見てピーマン栽培に関心を持ち、妻と相談して農業をやろうと考え、令和4年度に「おんせん県おおいた就農・就業応援フェア」の「おおいた農業経営・就農支援センター」のブースで就農相談をした。

2

相談内容

ピーマン栽培で生計が成り立つか不安があり、栽培知識も持っていないため、インキュベーションファームに入校したい。ついては、同学校の研修内容や卒業生の実績（収穫量や収益等）、入校手続き、スケジュールを教えてほしい。

また、入校までに農業体験研修ができるのかや、農地の確保や研修中の生活面に支援がないのかを聞きたい。

3

支援内容

●就農市町村の決定、研修機関等の紹介

相談者から 豊後大野市での研修希望があったため、同市の担当者を紹介し、相談対応を行った。

また、相談者から希望のあった入校までの**農業体験研修については、就農専属スタッフが短期研修を支援する事業を紹介**し、令和4年度に短期の農業体験研修を受講後、令和5年度にインキュベーションファームに入校して、本格的な農業研修を開始している。



農業体験研修を受ける様子



インキュベーションファームの外観

●生活面等の相談対応

相談者の関心があったインキュベーションファームの卒業生の実績等のほか、インキュベーションファームでは研修中の宿舍を整備していることなど、生活面の支援等について説明を行った。

●関係機関との連携による取組

自営就農に向けた経営相談や雇用対策などの相談は、**就農専属スタッフやインキュベーションファームのある市町村のフォローアップチームが連携**を取りながら対応している。

相談者は、インキュベーションファームの座学において、農業技術や農政にかかる基礎知識、営農までの計画策定の方法等に係る講義を受けている。農地については、豊後大野市とインキュベーションファームの講師が中心となって紹介し、売買や賃借契約ができる体制が構築されている。



インキュベーションファームで講義を受ける様子

今後の意気込み

短期の農業体験研修の間にいろいろな課題解決が出来て大変勉強になりました。今後に生かせることが多く、インキュベーションファームでの研修を頑張りたいです。

配偶者も、農業体験研修は楽しく良い経験になったと言っており、これから夫婦一緒に頑張ろうと思っています。

専属スタッフ所感

相談者は、インキュベーションファームに入校する前に、短期研修を経験したことで、ピーマン栽培のイメージや農業の実態を体験できたため、トラブルが少なかったです。また、研修にご夫婦で参加しており、お互いに作業の補完や相談が出来ています。

さらに、先輩からのアドバイスや実績で、相談者のビジョンが明確になっているようです。



小谷晃史氏

概要

◆氏名・所在地

小谷 晃史 宮崎県国富町

◆就農年

令和6年8月

◆経営規模

施設きゅうり 0.27ha

◆従業員数

パート・アルバイト 3名

◆事業内容

施設きゅうりの栽培に取り組んでいる。

1

就農相談までの背景

前職で、個人事業主として建築業を営んでいたが、兄が農家で働き始めやりがいを感じていることに刺激を受け、自身も農業に興味を持つようになった。

就農に必要な情報を収集している最中に知人から中古空きハウスの情報提供を受けた。その物件があるA町就農相談センターへ相談し、独立自営就農を目指して「みやざき農業実践塾」で研修を受けることを決意し、面接等を経て入塾した。「宮崎県農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」は研修開始後から相談対応を実施している。

2

相談内容

最初の相談は就農準備資金の活用や青年等就農計画の認定申請に向けての準備等に関してであった。一方、就農先として検討していた中古ハウスは、修繕費が高額になること等が判明して取得を断念したため、他の物件を探した。同時期に高齢のため引退を決意した農業者から支援センターに、ハウスや農地の承継先について相談があり、研修先との連携の下、経営承継についてのマッチングが成立した。その時点で研修期間を半年以上残していたため、就農までの期間、圃場の維持管理等について相談したい。

3

支援内容

●農地利用や生活面の相談対応

就農準備資金の申請手続や交付、研修状況確認など研修期間中の支援を行った。

就農予定農地の就農までの保安全管理については、支援センター及び農地中間管理機構と農地のある地区就農相談センター（国富町）が協議し、宮崎県スタンバイ農地事業＊を活用することとした。

＊ 新たな担い手が農地を速やかに利用できるように、農地中間管理機構と市町村推進チーム等が連携し、予め農地を用意（機構が中間保有し、農地として保安全管理）しておく仕組み。



支援センターによる支援の様子（研修中）

●関係機関との連携による取組

支援センターとして、相談者の就農準備状況に合わせ、就農準備初期段階から研修修了前まで継続して、研修先のみやざき農業実践塾や国富町、中部農業改良普及センター等と情報共有や協議など、連携して就農支援を行った。

●就農市町村の決定

農業用ハウス及び農地は、持ち主からの情報提供がきっかけで確保でき、国富町での就農を目指すために、宮崎県スタンバイ農地事業の活用や青年等就農計画の認定申請手続等を進めた。



承継する農地と農業用ハウス（保安全管理中）

今後の意気込み

出し手農家の方から「これまで自分の生活を支えてくれた施設が今後も活用されることはうれしい」と感謝の気持ちを伝えられ、改めて少しでも早く1人前の農業者になれるよう頑張りたいと決意しました。今後は兄と協力し、出し手農家や周辺農家の方々からの指導や協力を仰ぎながら、規模拡大を図りたいです。そして、経営が安定すれば兄弟それぞれが施設きゅうりで独立して法人化を果たし、更なる経営発展を目指します。

専属スタッフ所感

相談者は、就農に向けた情報収集や準備を十分に行った上で研修を開始され、就農相談窓口や研修先のアドバイスを真摯に受け止めて、研修も真面目に一生懸命取り組まれました。また、自らのスキルを活かし、初期投資を抑える努力もされ、そういったことが自営就農につながったのではと考えます。

今後も地域の関係機関等と連携し支援を継続していきます。



桑波田温士氏

概要

◆氏名・所在地

桑波田 温士 鹿児島県日置市

◆研修開始年

令和6年4月

◆事業内容

鹿児島県立農業大学校（野菜科）で就農に向けた技術習得に取り組む。

1

就農相談までの背景

前職で人工衛星と人工知能を活用した農場の分析研究に関わり、AgriTecに興味を湧いた。以前から、農業に関心があり、今までのITの知見を生かし、生まれ育った鹿児島でICTを活用した多品目の農作物を有機栽培で作り、農業ビジネスに参入したいと考えた。

しかし、農業を始めとなると、何から始めれば良いかわからず、色々と調べたところ、「かごしま農業経営・就農支援センター（以下「支援センター」という。）」があることを知り、当時の勤務地である東京都で開催された「新・農業人フェア」に参加した。

2

相談内容

「鹿児島県でICTを活用した有機栽培を始めたい」と大まかな構想はあるが、何から始めれば良いかわからない。農業の経験もなく、技術の習得や資金確保の不安などもあり、専門的な観点からの助言が必要だと実感したため、より具体的な就農までの計画や農業の技術を学べる研修機関について相談したい。

3

支援内容

●就農に向けた相談対応

令和6年1月に東京で行われた「新・農業人フェア」において、農業にビジネスとしての将来性を感じ、ソフトウェア会社を辞めて、出身地である鹿児島県で就農したいという相談を受け、県内の有機栽培の取組事例や技術・経営面の課題などの情報提供や研修先の紹介を行った。

●研修機関の選定

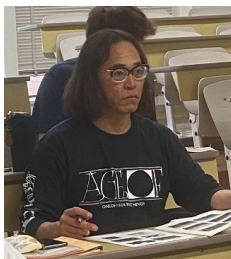
相談者は、就農前に研修機関で研修したいという要望があったため、県内の研修機関の中から、幅広く農業のことが学べる鹿児島県立農業大学校（以下、「農業大学校」という。）を紹介し、同校の教育カリキュラム等について説明した。

●農業大学校との連携による取組

相談者の情報を農業大学校と共有し、相談者への相談対応や支援を依頼し、相談者から連絡を受けた農業大学校がカリキュラムや入試日程等の詳細な情報を提供した。

●研修機関の決定

農業大学校を受験し、令和6年4月に野菜科に入学し、現在、就農に向けて専門的な技術習得や関連する資格取得に取り組んでいる。



講義を受ける様子（農業大学校）



実習を受ける様子（農業大学校）

今後の意気込み

今回、支援センターの窓口で相談したことで、ネットの情報だけではわからない実情や情報を得ることができました。

現在、農業大学校に入学し、専門的な技術の習得や関連する資格取得に取り組んでいます。就農後の経営についてはまだ手探り状態ですが、就農の相談等を受けていただいており、関係者の方に助けていただくことも多く、大変感謝しております。

専属スタッフ所感

相談者は、農業に対する意欲と明確な目標を持っていたので、就農に向けた様々な提案やアドバイスをさせていただきました。相談者は、農業経験はないものの、農業大学校で基本的な農業知識を学び、栽培技術を習得することで、就農に向けて準備を進めています。

今後とも、農業大学校や就農予定地の関係機関と連携を図りながら、支援を続けていきます。